

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カンボジア北西部バタンバン州において、CMAC と協働による地雷処理作業を実施し、CMAC に地雷処理技術を移転して自立処理能力の向上に寄与するとともに、地域住民の安全性の増大を図る。
(2) 事業内容	<p>ア 技術移転</p> <p>(ア) 素養試験及び練度評価 リフレッシャー訓練時を利用して素養試験を、また、10月から11月の間、#1 練度評価を実施した。</p> <p>(イ) OJT</p> <p>現場指導 ランドリリリースの SOP、DM・BC の運用、安全管理、業務管理等に関し 13 回実施した。</p> <p>計画教育 ランドリリリースの基礎事項、処理サイトの構成、補給整備について 4 回実施した。</p> <p>(ウ) CMAC と合同の巡回評価 TC で予定されている技術移転訓練の内容選定等のため、CMAC と合同で、DU1・2・6 において 5 個小隊の巡回評価を実施した。</p> <p>イ 地雷処理 ランドリリリース方式に基づき、機械処理と人力処理の統合処理により 60,8ha の地雷原を処理した。</p> <p>ウ 危険回避教育 近隣の小学校を主体に 8 回実施し、参加者は 554 名であった。</p> <p>エ 広報 JICA 関係者をはじめ、17 名の見学者に対応した。</p>
(3) 達成された効果	<p>ア 本報告期の特性(前提)</p> <p>(ア) 2012 年度事業の初動期(9月9日から12月31日)</p> <p>(イ) 新しい体制及び地雷処理方式を導入しての事業開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CBD を含めた部隊の再編とサイトマネージャー等の編成 ・ ランドリリリース方式、機械処理と人力処理の統合 <p>イ 技術移転</p> <p>(ア) 裨益者 事業編成内小隊等の指揮官 16 名、隊員 48 名の計 64 名、事業編成外 DU 1・2・6 の 5 個小隊 138 名の合計 202 名に上った。</p> <p>(イ) 素養試験及び練度評価 素養試験、練度評価とも、(副)小隊長、班長の平均値は 50 点台であり、今年度末には目標の 70 点に到達するよう、更に技術移転を推進する必要がある。</p>

	<p>(ウ) OJT</p> <p>ランドリリース サイトマネージャー、小隊長は、ランドリリースの理論及び SOP について理解度が向上しているが、副小隊長、班長に関しては不十分である。ランドリリースに必須の GPS 使用法と地図の見方は、共通的に更なる教育が必要である。</p> <p>機械処理と人力処理の統合処理 機械と人力処理班の連携について、小隊長クラスはその基本を理解してきたが、機械運用の判断が不十分で、地形特性に応ずる作業限界を理解していない。特に現場指導で能力向上を図る。</p> <p>業務の管理 継続的な補給整備の現場指導により、管理意識は向上している。しかし、工程管理やコスト管理、緊急時の請求行為や書類管理は不十分であり、継続的な指導が必要である。</p> <p>(エ) CMAC と合同の巡回評価 ランドリリースと業務管理のマネジメントを中心として 5 個小隊の巡回評価を行い、JMAS 外小隊のレベルを把握し TC 訓練の教育内容選定等に資することができた。5 個小隊はいずれも JMAS 小隊より低い技術レベルにある。</p> <p>ウ 地雷処理</p> <p>(ア) 2012 年度の処理目標は 256ha で、本期間は 65,7ha を計画していたが、実績は 60,8ha で 93%の達成率であった。これは、DM の故障及び雨期の泥濘により作業ができなかった(21 日間)ため、問題となるものではない。なお、地元へ引き渡された処理地は 32,3ha で、19 世帯が裨益し水田、トウモロコシ及びキャッサバ畑としての利用が予定されている。</p> <p>(イ) ランドリリース方式の採用により、地雷の存在確率が相対的に低い地域での作業効率が著しく向上した。また、CMAA の抜き打ち点検においても地雷除去信頼度「良好」の評価を得ており、地域住民の安全に十分寄与できると考える。</p> <p>エ 危険回避教育 事業の特性上、教育実施には制約があるが、小学校新学期の開始にタイミングに合わせ計画的に、また、診療所、商店、通行人等に軽易に実施しており、地元密着型教育としての効果があるものと考ええる。</p>
(4) 今後の見通し	<p>2 月に TC で予定している技術移転訓練を皮切りに、今後、事業が本格化し深化していく。各級指揮官のスキルレベルはほぼ予想通りであり、各階層とも大きな格差がないことから、着実な教育の積み上げにより、70 点の目標達成は可能と考える。また処理面積についても、ランドリリース方式は予想以上に効率的な処理が可能で、天候も既に作業に適した状況となっていることから、事業地として 1ヶ村を追加したが、目標達成は可能と見料する。</p>